「…私はMKT-820号ォ！今日こそ貴様を倒し、我等の因縁に決着をつけるゥ！」
「そういえば昨日一緒に行ったラーメン屋美味しかったじゃん。また行かない？」
「う、うん…。い、いやっ！この中で待つ…我が配下を倒してここまで来て見せろォ！！」
マガネがコートを靡かせながら振り向き、ショッピングモールの中へと姿を消した。
彼女のパートナー・レッドブイドラモンは目を煌々と輝かせ「楽しみにしてるぜーーー！！！！」とマイクも無しにマガネ以上の大声で言い放ち、後に続いて行った。

・10 地下一階
シュウは地下一階にてようやくMKT-820号と再開し、既にストライクドラモンとレッドブイドラモンによる格闘戦を開始していた。
「はーはっはァ！待っていたぞ26歳無職！…まさか屋上ではなく地下にいるとは思うまいてェ！」
「俺が最初から地下に来たらどうするつもりだったんだよ……というかいい加減名前覚えてくれないか？」
「それは無い。なにせ貴様はバカァ！つまり高いところに昇るのだ！！それに貴様なんぞO.A.S.I.S.プラグラムに関わるとリサに言われなければ相手なぞしてやらんから26歳無職で充分なのだぁーっはっはっは！！」
MKT-820号はシュウをひたすらにバカにして爆笑するが、思いっきり咳き込んでしまった。

「いや…だってアレは無いよね…レッドブイドラモンはどう思う？」

「ぷっ…だぁーっはっはっは！！無い無い絶対無え！！！似合わな過ぎだろいくら何でも！！！！は、腹痛え……！」
「なんで意気投合してるんだ貴様らァ！…そうだストライクドラモンくん、君はどうかねぇ！」
「オレ詳しくないけど、そういうのフクジンヅケが無いって言うらしいゼ！」
「伏線な」
「くそう！くそう！」
MKT-820号は作戦が成功しているのに何故か涙目で机を叩き始めた。

「ふっ……まさか宿敵である貴様に助けられとはな。だが次はこうはいかんぞ、覚悟して待っていろ26歳無職童貞！！」
「はいはい次こそは名前を覚えて……なんか聞き捨てならない文言が追加されてるんだが！！？」
「五月蝿いわ！！華のJDが色仕掛けしてやったのにあんな反応しか返せないなぞ女とまともに付き合った事が無いとしか考えられんわバーカバーカ！！！」
「やめろーーー！！オアシス団の中で変な噂が広がるだろーーーがーーーーー！！！！！」